

シラバス

事業者名 社会福祉法人 博愛会
特別養護老人ホーム会津みどりホーム

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	1. 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境でどのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持ち、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
1. 多様なサービスの理解 P3～15	2	2		§1 「介護」とは？ 1.法律の用語からみた「介護」 2.介護保険制度で提供される介護サービス
2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解 P15～43	4	4		§2 介護サービスの仕事とは？ 1.働く側からみた「介護の仕事」 2.利用者の立場からみた介護サービスの状況 —介護保険サービスを利用し在宅生活を継続する高齢者夫婦 §3 介護の資格とキャリアシステム 1.介護福祉士制度について 2.訪問介護員(ホームヘルパー)研修制度について 3.介護サービス従事者の養成システム全般の見直し 4.介護の職務の基本的理解
合計	6	6		

科目名	2. 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	・介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援・介護予防に基づいた福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。 ・具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資する(助けとする)ケアへの理解を促す。			
項目名	時間数	通学時間数	講師	講義内容・演習の実施方法等
1. 人権と尊厳を支える介護				§1 人権と尊厳の保持 1.人権の考え方 2.人権尊重に関する国連での取り組み 3.わが国における基本的人権の保障 4.医療福祉分野での人権

<p>P47～89</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>§ 2 QOLの考え方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.QOLが求められた社会的背景 2.健康関連QOL (health-related QOL:HRQOL) 3.ADL(日常生活動作)からQOL(生活・人生の質)へ 4.高齢期のQOLと介護 5.QOLの意義とこれからの課題 <p>§ 3 ノーマライゼーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ノーマライゼーションとは 2.ノーマライゼーションの理念の誕生 3.ノーマライゼーションの国際的展開 4.ノーマライゼーションの難しさ 5.ノーマライゼーションの発展 ——「憐れみ」から「人権」へ 6.ノーマライゼーションと介護 7.ノーマライゼーションに関連する概念 <p>§ 4 虐待防止・身体拘束禁止</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.身体拘束禁止 2.高齢者虐待防止法 3.高齢者の養護者支援 <p>§ 5 個人の権利を守る制度の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者の人権全般を守るための制度 2.判断能力の低下した高齢者の権利を守るための制度 3.悪徳商法などから高齢者の財産を守る制度 4.貧困による生活苦から高齢者を守る制度
<p>2. 自立に向けた介護</p> <p>P91～117</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>§ 1 自立支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.自立支援とは—— 日々の生活に誇りや自信をもてること 2.「お世話」の介護観からの脱却 3.残存能力の活用——「からだ」と「こころ」は切り離せない 4.本人の自己選択・自己決定を促し、尊重する 5.こころの自立—— 生きる希望や意欲を引き出す支援 6.一人ひとりを個別的に理解し、支援していく <p>§ 2 介護予防</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者の多数派は 重度の要介護状態ではない 2.介護予防の視点——利用者自身の生活能力や意欲を引き出していく 3.寝たきりは寝かせきりからつくられる 4.介護予防施策の推進 5.効果的な介護予防の取り組み——運動器の機能向上、栄養改善 6.地域全体で取り組む必要性
<p>合計</p>	<p>9</p>	<p>9</p>	

<p>科目名</p>	<p>3. 介護の基本</p>
<p>………</p>	<p>・可能な限り具体例を示し、介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性を理解する。</p>

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

指導目標	・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるように促す。			
項目名	時間数	通学時間数	講師	講義内容・演習の実施方法等
1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携 P119～173	2	2		§ 1 介護環境の特徴の理解 1.利用者生活の拠点 2.少子高齢社会と介護システム 3.利用者を地域で支える 4.2018(平成30)年介護保険制度改正の要点 § 2 介護の専門性 1.介護の理念 2.介護の対象と目的・定義 3.介護実践の原則 4.「社会福祉士及び介護福祉士法」の制定と改正 5.求められる介護福祉士像とは 6.介護職が実施できる医療的ケア 7.介護福祉士の資格取得方法の見直し § 3 介護に関わる職種 1.多職種連携の意義と目的
2. 介護職の職業倫理 P175～186	1	1		§ 1 職業倫理 1.倫理観の必要性 2.倫理綱領とは 3.事例紹介
3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2		§ 1 介護における安全の確保 1.リスクマネジメントと危機管理の違い 2.安全関連用語と定義 3.介護事故と労働災害 § 2 事故予防 1.不安全状態と不安全行動 2.事故の予防と危険感受性 3.高齢者の特性 4.作業環境管理、作業管理および健康管理 § 3 安全対策 1.安全教育 2.危険予知訓練(KYT) 3.リスクアセスメントとリスクマネジメント 4.現場で実施できるリスクアセスメント 5.介護事故が起こってしまったときの対応 § 4 感染対策 1.感染症の基礎知識 2.介護現場に関わる主な感染症

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

P187～223			<ul style="list-style-type: none"> 3.感染症対策に対する基本的態度 4.感染症予防の基本事項 5.介護職員の健康管理 6.空調などの設備の管理 7.感染予防に基づいた介助
4. 介護職の安全	1	1	<p>§ 1 介護職のこころの健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.ストレッサーとストレス反応 2.職場のストレスモデル 3.労働者のこころの健康の保持増進のための指針 4.介護職員のこころの健康の保持増進 <p>§ 2 介護職のからだの健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.腰痛とは 2.職場における腰痛予防対策の基本的な考え方 3.腰痛予防のための労働衛生管理
P225～242			
合計	6	6	

科目名	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		
指導目標	・利用者の生活を中心に考え、その生活を支援するための介護保険制度、障がい者自立支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスを理解する。		
項目名	時間数	通学時間数	講師
			講義内容・演習の実施方法等
1. 介護保険制度	3	3	<p>§ 1 介護保険制度創設の背景と目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.制度創設の背景 2.制度創設の目的 <p>§ 2 介護保険制度の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.介護保険制度の対象者(被保険者)、要介護認定者数などの増加 2.介護費用の増加、介護保険料の増加 3.今後の動向と見通し 4.これまでの制度改正の流れ <p>§ 3 介護保険制度のしくみ①</p> <p>——保険システム、要介護認定、ケアマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.制度全体のしくみ 2.保険システム 3.要介護認定 4.ケアマネジメント、ケアプラン、ケアマネジャー <p>§ 4 介護保険制度のしくみ②</p> <p>——介護報酬、財源、組織、その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.介護報酬 2.介護財源 3.制度運営にかかる行政組織など 4.介護保険事業計画 5.その他 6.制度全体図 <p>§ 5 介護サービスの分類と種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.サービス利用者による介護サービスの分類 2.給付(サービスの費用)の種類による分類 3.サービスの提供場所による分類 4.介護サービスの種類

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

P243~290			<p>§ 6 主な介護サービスの内容とサービス事業者・施設</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.要介護者を対象としたサービス(介護給付対象) 2.要支援者を対象としたサービス(予防給付対象) 3.介護サービス事業者・施設とその指定 <p>§ 7 保険給付以外の事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地域支援事業 2.地域包括支援センター 3.保健福祉事業
2. 医療との連携 とリハビリテーション	2	2	<p>§ 1 介護における医療と福祉の連携</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保健医療サービスと福祉サービス 2.居宅サービスにおける医療と福祉の連携 3.施設サービスなどにおける医療と福祉の連携 4.医療機関との連携 5.サービス提供者の意識 <p>§ 2 介護職と医行為</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.介護職の業務 2.医行為とは 3.医行為とそれ以外の行為との境界線 4.介護職員が行える医行為 <p>§ 3 リハビリテーション 1.リハビリテーションとは</p> <ol style="list-style-type: none"> 2.リハビリテーションの過程 3.リハビリテーションスタッフの役割 4.QOL(生活の質)の向上
3. 障害自立支援法及びその他制度	4	4	<p>§ 1 障害者自立支援制度の背景</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.障害者の生活構造の理解 2.「生活者」として総合的に理解——生物的・社会的・文化的な存在 3.国際生活機能分類による「生活機能」「障害」の理解 4.介護職員等、専門職員の支援が良き「環境因子となる」 5.目標、願いの実現に向けたケアマネジメント・プロセス 6.個別支援と環境改善、合理的配慮における「実践理念」 <p>§ 2 障害者総合支援法に基づく総合的な支援制度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.障害者総合支援法の制定の経緯、目的、基本理念 2.法律上の「障害者」の定義 3.市町村の責務、役割 4.自立支援給付、障害福祉サービスの体系 5.自立支援給付、障害福祉サービスの概要 6.児童福祉法に基づく障害児サービスの概要 7.介護保険と障害福祉サービスの「共生型サービス」創設 8.相談支援に関する費用の給付 9.障害福祉サービス利用の手続き、プロセス 10.「サービス等利用計画案」の作成と支給決定プロセス 11.地域生活支援事業 12.介護給付費等の財源、利用者負担の制度 <p>§ 3 障害者ホームヘルプサービスの運営</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.障害者ホームヘルプサービスの種類と内容の特質 2.訪問系サービス、生活介護、共同生活援助等の現状 3.共同生活援助(グループホーム)と居宅介護サービス 4.「個別支援計画」等に基づく専門職員の連携 5.居宅介護事業の運営基準、「個別支援計画」の作成等 6.障害者虐待防止法、居宅介護等における虐待防止
合計	9	9	

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

科目名	5. 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者のコミュニケーション能力に合わせた配慮が必要であることを気づかせる。 ・コミュニケーションは対人援助の基本であり、基礎的な知識と技術を習得させる。 ・チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることを気づかせる。 			
項目名	時間数	通学時間数	講師	講義内容・演習の実施方法等
<p>1. 介護におけるコミュニケーション</p> <p>P3～54</p>	5	5		<p>§ 1 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは 2. 二者間のコミュニケーション過程の理解 3. 介護職におけるコミュニケーションの基本 <p>§ 2 コミュニケーションの技法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質問の技法 2. 話を要約する技法 3. 明確化する技法 4. くり返しの技法 5. 言い換えの技法 6. 介護職として求められる相談の技術 <p>§ 3 道具を用いたコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆談や会話を補助する機器 2. 聞くことを助ける機器 3. 読むことを補助する機器 <p>§ 4 利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の思いを把握する 2. 家族の思いを把握する 3. 利用者の思いを家族が理解する支援に向けて 4. 利用者と家族の思いが一致する支援に向けて <p>§ 5 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚・言語障害者とのコミュニケーション 2. 難聴者とのコミュニケーション 3. 視覚障害のある人とのコミュニケーション 4. 失語症のある人とのコミュニケーション 5. 構音障害のある人とのコミュニケーション 6. 認知症のある人とのコミュニケーション 7. 知的障害のある人とのコミュニケーション 8. 精神障害のある人とのコミュニケーション
<p>2. 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <p>P55～80</p>	1	1		<p>§ 1 記録による情報の共有化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記録の意義・目的 2. 介護に関する記録の種類 3. 記録の書き方と留意点 4. プライバシーの保護と介護サービスの情報公開 <p>§ 2 介護サービスにおける報告、連絡、相談</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意義と目的 2. 報告・連絡・相談をしていく際の留意点 <p>§ 3 コミュニケーションを促す環境(介護サービス現場の会議など)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケアカンファレンス、事例検討 2. サービス担当者会議
合計	6	6		

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

科目名	6. 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化、疾病の症状等について、その対応における留意点を理解し、介護において生理的側面の知識を継続的に身につける必要性と事項を理解する。			
項目名	時間数	通学時間数	講師	講義内容・演習の実施方法等
1. 老化に伴うところとからだの変化と日常 P83～110	3	3		§1 老化に伴うところとからだの変化 1. 老化のメカニズム 2. 寿命 3. 老化の特徴 4. 老化によるところとからだの変化と観察のポイント 5. 知的能力の老化と特徴 §2 老化に伴うところとからだの変化と日常生活 1. 老化による日常生活への影響 2. 国民生活基礎調査からみた高齢者の有訴(ゆうそ)者率と通院者率 3. 身体的な老化と日常 4. 要介護状態とならないために(フレイル予防)
2. 高齢者と健康 P111～145	3	3		§1 高齢者と健康 1. 老人病と成人病、生活習慣病 2. 代表的な死因と生活習慣病 §2 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 1. 老化に伴う疾患 2. 代表的な生活習慣病 3. その他の生活習慣病 4. 老化による疾患と生活習慣病全般についてのおさらい
合計	6	6		

科目名	7. 認知症の理解			
指導目標	・認知症の利用者の介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。			
	・複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則を理解できるようにする。			
項目名	時間数	通学時間数	講師	講義内容・演習の実施方法等
1. 認知症を取り巻く状況 P149～154	1	1		§1 認知症ケアの理念 1. 「生活者」としての理解——残された意欲や能力に着目していく 2. 認知症の人の世界を理解していく——利用者その人が「生活の主人公」 3. 利用者本人の「感情面」や「思い」をみていく
2. 医学的側面か	2	2		§1 認知症の概念 1. 認知症とは 2. 認知症に似た状態 3. 認知症の診断 4. 認知症の評価スケール

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

ら見た認知症の基礎と健康管理 P155~176			§ 2 認知症による障害 1.記憶障害 2.認知機能の障害 3.認知症の原因となる主な疾患 4.若年性認知症と老年期認知症 5.認知症予防対策 § 3 健康管理 1.健康管理の重要性 2.健康管理のポイント
3. 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 P177~193	2	2	§ 1 中核症状 § 2 行動・心理症状 1.認知症の行動・心理症状の現れ方 2.BPSDの出現要因 3.主なBPSD 4.事例検討 § 3 認知症の利用者への対応 1.認知症の人とのコミュニケーション 2.基本的なケア 3.認知症の人と向かい合うために
4. 家族への支援 P195~202	1	1	§ 1 家族への支援 1.家族の介護負担感 2.家族介護者へのエンパワメント 3.家族のレスパイト
合計	6	6	

科目名	8. 障害の理解		
指導目標	・障がいの概念とICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解する。 ・高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障がいの特性と介護上の留意点に対する理解を促す。		
項目名	時間数	通学時間数	講師
1. 障害の基礎的理解 P205~212	1	1	
			講義内容・演習の実施方法等 § 1障がいの概念 § 2ICFの考え方 § 3障害者福祉の基本理念
2. 障害の医学的側面、生活障がい、心理、行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 P213~237	1	1	
			§ 1 視覚障害 § 2 聴覚・平衡(へいこう)機能障害 § 3 音声・言語・咀嚼(そしゃく)機能障害 § 4 肢体不自由 § 5 内部障害 § 6 障害の受容 § 7 知的障害 § 8 精神障害 § 9 高次(こうじ)脳(のう)機能(きのう)障害 § 10 発達障害

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

3. 家族の心理、 かかわり支援の 理解 P239～272	1	1	§1 家族の心理 1.障害児・者の家族の心理 2.障害受容 §2 家族への支援
合計	3	3	

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実践できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。			
項目名	時間数	通学時間数	講師	講義内容・演習の実施方法等
1. 介護の基本的な考え方 P3～15	4	4		§1 理論と法的根拠に基づく介護 1.介護に関する専門的知識・技術の必要性 2.介護サービスは何を目的に支援していくのか 3.介護に関わる法律上の規定や考え方 4.生活支援としての介護サービス 5.医療サービスと介護サービスに求められる役割の違い 6.利用者主体の介護 7.生活障害という視点 8.生活の質(QOL)を高める視点の大切さ
2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 P17～36	3	3		§1 学習と記憶の基礎知識 1.記憶の働き 2.記憶のメカニズム 3.長期記憶の機能 4.忘却 5.記憶と加齢 6.記憶と学習 §2 感情と意欲の基礎知識 1.感情の定義 2.感情の反応 3.感情の発生 4.感情と加齢 5.意欲(欲求)と動機づけ 6.マズローの欲求階層説 §3 自己概念と生きがい 1.さまざまな老年期 2.自己概念 3.老年期と生きがい 4.老年期の人間関係と幸福感 §4 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 1.老化過程への適応 2.障害への心理的反応 3.障害受容と価値の転換 4.障害の自己受容と社会受容 5.支援に向けて

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

<p>3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p> <p>P37～79</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>§ 1 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.人体の構造と機能 2.バイタルサイン(生命徴候) <p>§ 2 骨・関節・筋に関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.からだの運動 2.骨格と関節 3.骨格筋(筋肉)の役割、神経との連動 4.ボディメカニクス 5.良肢位(機能的肢位) <p>§ 3 中枢神経系と末梢神経系に関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.神経系のしくみ 2.中枢神経系 3.末梢神経系 <p>§ 4 自律神経と内部器官に関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.自律神経 2.自律神経と人体の内部器官の各機能 <p>§ 5 ころとからだを一体的に捉える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者の健康とは 2.ころのしくみ 3.からだのしくみ 4.利用者を一体的に捉える
<p>4. 生活と家事</p> <p>P83～126</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>§ 1 生活と家事の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.生活支援としての家事サービス 2.高齢者に対する生活支援の意味するところ 3.「生活」の再構築という視点 4.生活の大切な要素 5.残された能力を活用し、生活能力を高める介護の知識・技術 6.認知症高齢者への関わり 7.日々を充実することで生じてくる意欲 8.普通に暮らすということ 9.くつろいで過ごすことのできる条件 <p>§ 2 家事援助に関する基礎的知識と生活支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.家事援助の方法 2.買い物支援のための基礎知識 3.調理(食事)支援のための基礎知識
<p>5. 快適な居住環境整備と介護</p> <p>P127～147</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>§ 1 快適な居住環境に関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.快適な居住環境づくり 2.住居の安全と事故防止 <p>§ 2 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者・障害者特有の居住環境整備 2. 目的に合わせた適切な住宅改修や福祉用具の選択と使用
<p>6. 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7</p>	<p>7</p>	<p>§ 1 整容に関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.身じたくの意義と目的 2.身じたくの介護の基本 3.衣服の役割 4.衣服を選ぶときの配慮事項 5.身体状況に合わせた衣服の選択 6.衣服の着脱の支援の基本と留意点

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

P151~180			<p>§ 2 整容の支援技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.整容行動とは 2.洗面の意義・効果 3.整髪 4.爪の手入れ 5.化粧 6.ひげ剃り 7.口腔ケア
----------	--	--	--

項目名	時間数	通学時間数	講師	講義内容・演習の実施方法等
7. 移動、移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p>§ 1 移動・移乗に関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.移動の意義 2.廃用症候群(生活不活発病)とは 3.利用者の身体状況に応じた介護技術 4.ボディメカニクスを知る 5.安全・安楽な移動・移乗のために <p>§ 2 さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.安楽に関する道具・用具の種類 2.移動・移乗時の補助具 <p>§ 3 介護職員にとって負担の少ない移動・移乗の支援方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.安楽な体位の保持のための介助手順 2.体位変換 3.車いすの介助 4.歩行介助 <p>§ 4 移動と社会参加の留意点と支援 1.社会とのつながり</p>
8. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p>§ 1 食事に関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.食事の意義と目的 2.食事に関連したところとからだのしくみ 3.栄養素とその働き(栄養の理解) 4.栄養素と食品の関係(食品の成分) 5.献立の立て方 6.食品の保存と食品の安全性 7.調理の基本 <p>§ 2 食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.食事環境の整備 2.食器・食具の工夫 3.食事介助の技法 <p>§ 3 楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者の食事 2.疾患と食事 <p>§ 4 食事と社会参加の留意点と支援 1.食事と社会参加</p>
9. 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p>§ 1 入浴、清潔保持に関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.入浴・清潔を保つことの意義と目的 2.入浴、清潔を保つことに関わるからだのしくみ <p>§ 2 さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.入浴補助用具

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

P279~330			<p>§ 3 さまざまな入浴・清潔を保つための方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.入浴 2.入浴介助のポイント 3.部分浴 4.清拭 5.整容(ひげ剃り、整髪、鼻・耳掃除、爪切り) <p>§ 4 楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.こころの機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響 2.からだの機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響
----------	--	--	--

項目名	時間数	通学時間数	講師	講義内容・演習の実施方法等
10. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p>§ 1 排泄に関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.排泄とは 2.排泄の3つの意味 3.おむつ使用のマイナス面:排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 4.おむつは最終手段 5.排泄介護の基本視点は尊厳の保持と自立支援 <p>§ 2 さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.排泄環境整備 2.排泄用具の活用方法 <p>§ 3 爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.爽快な排泄を阻害するところの要因 2.排泄のメカニズム 3.爽快な排泄を阻害するからだの要因 4.排泄介護の実際
11. 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p>§ 1 睡眠に関する基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日常生活の生活パターン 2.睡眠とは 3.睡眠障害 4.睡眠障害時の介助と援助方法 5.入眠儀式 <p>§ 2 さまざまな睡眠環境と用具の活用方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.寝室の環境 2.寝具・就寝時の衣類 3.福祉用具の活用 <p>§ 3 快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.快い睡眠を阻害するところとからだの要因 2.就寝時の支援
12. 死にゆく人に関したところとか	3	3		<p>§ 1 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.死生観を育て利用者の死を受け止める 2.終末期ケアとは 3.高齢者が死にいたるプロセス 4.利用者ニーズに寄り添う看取りの要件

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

<p>らだのしくみと終末期介護</p> <p>P377～398</p>			<p>§ 2 「死」に向き合うこころの理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.死に向き合う高齢者の心理 2.看取りにおける介護職員の基本的態度 <p>§ 3 苦痛の少ない死への支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.苦痛を和らげる 2.緩和ケアのための環境づくり 3.多職種間の情報共有の必要性 4.家族の苦痛緩和 5.遺族へのグリーフケア(悲嘆への支援) 6.看取りにおける倫理観(望ましい言動と望ましくない言動)
<p>13. 介護過程の基礎的理解</p> <p>P401～409</p>	4	4	<p>§ 1 介護過程の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.介護過程に基づく介護展開 2.介護過程の基礎的理解 3.介護過程の必要性 4.介護過程の流れ
<p>14. 総合生活支援技術演習</p> <p>P411～463</p>	6	6	<p>§ 1 【事例1】Yさん、80歳、女性、要介護4</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.事例概要 2.日常生活の状況 3.Yさん本人や家族の思い、今後の支援の方向性 4.片まひ、失語症がある利用者への介護サービスにおけるポイント 5.総合生活支援技術演習 6.場面における介護のポイント 7.「支援の全体像」を話し合う <p>§ 2 【事例2】Oさん、88歳、女性、要介護2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.事例概要 2.日常生活の状況 3.Oさん本人の思い、今後の支援の方向性 4.認知症のある利用者への介護サービスにおけるポイント 5.総合生活支援技術演習 6.場面における介護のポイント 7.「支援の全体像」を話し合う <p>§ 3 【事例3】Aさん、81歳、女性、要介護1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.事例概要 2.日常生活の状況 3.Aさん本人の思い、今後の支援の方向性 4.在宅で暮らす中軽度の認知症がある利用者への介護サービスにおけるポイント 5.総合生活支援技術演習 6.場面における介護のポイント 7.「支援の全体像」を話し合う <p>§ 4 【事例4】Kさん、88歳、女性、要介護5</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.事例概要 2.日常生活の状況 3.Kさんの思い、今後の支援の方向性 4.寝たきり状態にある利用者への介護サービスにおけるポイント 5.総合生活支援技術演習 6.場面における介護のポイント 7.「支援の全体像」を話し合う
<p>合計</p>	75	75	

参考5(介護職員初任者研修・生活援助従事者研修共通)

科目名	10. 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。			
項目名	時間数	通学時間数	講師	講義内容・演習の実施方法等
1. 振り返り P465～467	3	3		<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと
2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・根拠に基づく介護についての要点 (利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) ・継続的に学ぶべきこと ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を紹介
合計	4	4		